

令和4年度 ハンズオン支援の事例

桑名地域

赤そばの会（いなべ市）

四日市地域

夢ある稲生まちづくり協議会 産業振興部会（鈴鹿市）

津地域

株式会社つじ農園（津市）

松阪地域

合同会社元丈フォレスト 元丈の館（多気町）

伊勢地域

伊勢緑茶加工センター有限公司（度会町）

伊賀地域

J Aいがふるさと 芭蕉ねぎ部会（伊賀市・名張市）

赤そばの会（いなべ市）

長尾地区では、農家組合、婦人会、老人会などの集落組織が力を合わせて、かつての耕作放棄地を赤そばの畑に変え、美しい景観が広がっています。

赤そば栽培は、美しい景色で人々を惹きつけるだけでなく、そばの製粉・加工施設の建設とそば打ち体験活動に繋がりました。さらに、集落外の近隣住民を巻き込んだ交流に発展した結果、「赤そばの会」が発足しました。赤そばを接点に、集落組織と集落外の住民が一緒になって、長尾地区を盛り上げます。

高齢化が予想される将来においても、長尾地区の農地維持活動が継続できるよう、集落内の幅広い世代や多様な人々、特に青壮年層を巻き込み、活動を活発にするとともに、地域を活性化し「持続可能な地域づくり」を目指します。

スタートアップの取組

そば打ち体験や、長尾集落の農産物を販売する直売所「赤そば茶屋」を令和4年8月にオープンしました。

「つなぐ、つなげる、つながる」のコンセプトを表現する看板を入り口に掲げました。

ぼそぼそした蕎麦が、麺となり繋がっていくように、人や村、様々なものを繋げたいという思いを込めた書体に、絵の腕に覚えのある会員による蕎麦の花の絵を添えました。

また、看板のデザインは箸袋、名刺、暖簾などの様々なアイテムに活用され、活動に携わる人々と訪れる人々の心を繋いでいきます。



赤そば祭り



赤そばの景観と看板

これからの取組予定

- ① 赤そばを核に、集落で取り組むコミュニティビジネスを発展させます。
- ② 赤そば茶屋の活動を発展させ、以下の取組を目指します。
 - ・社会福祉協議会と連携し、都市住民との交流を進めます。
 - ・高齢者世代が、営農活動にいつまでも参加できる環境を作ります。
 - ・青壮年世代が役割を担い、農地維持活動が継続する仕組みを作ります。

夢ある稲生まちづくり協議会 産業振興部会（鈴鹿市）

夢ある稲生まちづくり協議会産業振興部会は、地域産米を活用した地酒のブランド化および地域特産農作物による地域おこしを進めることで、より多くの鈴鹿市民（三重県民）に、稲生地区の豊かな地域資源を再認識していただき、地域産業の活性化に繋げていきます。



稲生小学校の稲刈り体験

スタートアップの取組

稲生地区では、地元で生産した米「みえのゆめ」を鈴鹿市内の酒造業者へ製造委託し、「稲生おんど」として商品化しています。さらに売上の向上および販路の拡大を目指すため、原料品質の向上および製造量の増加を図ることと併せて、効果的な情報発信が必要となります。

古くから稲作が盛んであったため「稲生」と名付けられたという説があることから、歴史と農耕文化に富んだ「米どころ稲生」をデザインのコンセプトにしたのぼりを作成しました。

販売場や祭り・イベントでの試飲会等でのぼりを活用することで、「稲生おんど」の知名度を向上させるとともに、飲食店や量販店等への販路拡大に繋げていきます。



のぼり「稲生おんど」

これからの取組予定

- ① 地酒「稲生おんど」の知名度向上
「稲生おんど」の知名度向上に努め、製造委託量を拡大します。
- ② 稲生米のブランド化
担い手を増やし、一層のブランド化を図ります。
- ③ 地域イベントの発展
住民参加型の様々なイベントをリニューアルし、地域を活性化していきます。

また、将来的には甘酒の商品化も考えており、幅広い世代に「稲生おんど」ブランドをPRしていくことで、地元への愛着を深めてもらい、米や酒の販売拡大から地域農業の活性化および地域自体の活性化に繋げていきます。

株式会社つじ農園 (津市)

津市大里睦合町は、旧津市の北部に位置し、水稻、露地野菜が主に栽培されています。平成28年度より、株式会社つじ農園が地域の担い手として新規就農し、スマート農業や有機農業に取り組みながら、経営規模を年々拡大しています。

また、同町は農村地域の継続可能性を研究する「千年村プロジェクト」の「千年村」の承認を受けており、集落営農機能が評価されています。

今後も地域の継続的かつ発展的な取組に繋げるため、農業を核とした地域内外のさらなる交流を活性化させ、令和時代の新たな農村集落のモデル化の実現に向けて取り組んでいきます。



スタートアップの取組

水稻栽培において、ドローンによる生育のセンシング技術を活用したスマート農業を推進するとともに、化学農薬や化学肥料を使用しない環境に配慮した有機栽培にも力を入れて取り組んでいます。

また、これまでも収穫祭を通じて地域内外の人との交流を図ってきましたが、取組を進めるためには、より農村集落の魅力を伝える工夫が求められます。

そこで、集落内の水田が有する植物や生物の生態を調査、評価する生き物調査を実施し、自社ホームページや収穫祭で、その調査結果を新たな情報として発信しました。



生き物調査



収穫祭でのブース設置による取組のPR



生き物調査を実施しました。
つじ農園の周辺は田んぼが多く広がり、川を流すため水にも恵まれた環境です。



亀山市を中心に木の健康発見活動を行う「魚と子どものネットワーク」さんのご協力で、つじ農園周辺地域の生き物調査を行いました。
今回は、生き物調査という形で「ほんとはいい中」用排水路を主に調査しました。



自社ホームページ上での生き物調査結果の公開

これからの取組予定

令和5年3月5日にオンライン開催された、長期持続可能な地域を研究する「第7回千年村大会」(主催・千年村プロジェクト、参加者100名)において、本取組を紹介したところ大変好評を得られました。

このことから、今後も継続して生き物調査を実施し、農村集落が有する魅力を伝える手段として活用しながら、以下のことを中心に取り組んでいきます。

- ① これまで関係者のみで調査していたが、今後は地域内外の人(特に子ども)にも参加してもらうイベントにすることによる新たなファンの獲得
- ② 同様の取組を行っている他地域との連携による、農村集落が有する価値の共有および新たな情報発信方法の検討

合同会社元丈フォレスト

元丈の館 (多気町)

合同会社元丈フォレストは、日本薬草学の先駆者である「野呂元丈」の偉業を偲んで平成12年に設置された「元丈の館」において、資料の展示および食堂や農産物の販売コーナー、薬草薬樹公園を備え、地域資源を活用した地域の活性化に取り組んでいる団体です。

今後多気町波多瀬地区内の他団体と協力しながら、祭り等の地域イベントを開催することで、地域の活性化に繋げていきます。



スタートアップの取組

元丈の館は、国道等幹線道路から離れており、生活道路からも入り込む必要があるため、場所が大変分かりづらいという弱点があります。

そこで、地域外からの新規来館者を誘導するのぼりを作成しました。のぼりのデザインは、地域資源のPRや集客に繋がるよう、薬草やハーブ、足湯をコンセプトにしました。

朝市や秋・春の祭り等地域イベントでの来客者誘導にも積極的にのぼりを活用していきます。



のぼり「元丈の館」



直売施設と地元の物産



薬草の足湯

これからの取組予定

元丈の館が地域住民の憩いの場であるだけでなく、農業従事者が自分の畑で作った野菜等を販売できることで、若者から高齢者まで幅広い世代に生きがい・やりがいを提供できる場に繋がります。

また、元丈の館・営農組合・波多瀬区が共催で春・秋の祭りを開催することで、子供たちを中心に家族みんなで楽しむ場と、子供たちの思い出作りを行っていきます。

さらに、ハーブ園やハーブの会の活動を通じて、ハーブ作りの楽しさやハーブの効能をPRしていきます。

伊勢緑茶加工センター有限公司

(度会町)

伊勢緑茶加工センター有限公司は、茶産地度会町で将来の茶生産を担うことを目的に平成17年に設立された法人です。高齢化等により栽培が困難になった茶園などを引き受ける担い手組織で、荒茶加工と茶園管理を行っています。

また、経営の安定化と地域の農業を維持するため、JAと連携し、水稻の育苗や作業受委託、野菜栽培にも取り組んでいます。



スタートアップの取組

団体の経営の柱となる茶についての改善のポイントは、販売方法です。

このことから、専門家と将来を見据えた販売方法について検討することで、販売に関する意識改革および必要な情報発信等を理解し、販売力の向上による経営の安定化および特産品目としての茶の魅力発信に繋がります。

① 専門家との販売方法の検討

茶の販売力の向上および特産品目としての魅力発信に向けて、問題点と解決策を検討しました。

② 販売方法の見直し

効果的な情報を発信し、顧客を確保するために、商品紹介用パンフレットを作成しました。



専門家との検討会



商品紹介用
パンフレット

これからの取組予定

今後も定期的に話し合いの場を設け、スタートアップの取組に関する検証や情報収集を行い、販売方法や商品化について、ブラッシュアップしていきます。

- ターゲットはどこか？
- 購入のきっかけは何か？
- ↓
- 販売戦略の作成
- 販売体制の確立に向けた構成員同士の情報共有と意識共有

JAいがふるさと 芭蕉ねぎ部会 (伊賀市・名張市)

伊賀地域の白ねぎ栽培は平成30年より、耕作放棄地の増加を防ぎたいとの地域住民の想いから始まり、排水対策や土壌改良を行いながら、令和元年より本格的な作付けを開始しています。

伊賀市出身の俳聖・松尾芭蕉にちなんで「伊賀の芭蕉ねぎ」と名付け、JAいがふるさと、発起人である農業法人、福祉事業所と3者共同で商標登録を行い、ブランド化にも取り組んでいます。



スタートアップの取組

伊賀地域における「伊賀の芭蕉ねぎ」の認知度向上を図るため、ミニのぼりと通常のぼりを作成しました。

今後、地元直売所やスーパー等の店内にミニのぼりを立てることにより、「芭蕉ねぎ」の商品PRを行い、地元消費者への購買意欲を促進していきます。

また、販売促進イベントへの参加や、給食などへの食材提供による小中学生などの若い世代への地元食材のPRを検討していることから、そのような機会でのぼりを活用していきます。



ミニのぼり・のぼり



栽培研修会（太さ、軟白長を確認し、出荷時期を相談）



「伊賀の芭蕉ねぎ」を活用した「ねぎみそパン」を商品化

これからの取組予定

生産拡大のため、産地拡大に向けた栽培推進とともに、栽培技術支援による収量および秀品率の向上を目指します。

また、地域での「伊賀の芭蕉ねぎ」の認知度向上を図ることで、さらなる消費拡大に繋げ、地域のブランド品目としての確立を目指していきます。

- ① 収益性の高い品目になるような高品質な白ネギ生産を続けていきます。
- ② SNSを活用して栽培技術の共有を促進していきます。
- ③ 「伊賀の芭蕉ねぎ」の知名度を高め、特産品として商品化していきます。

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122